



あけまして  
おめでとーございます

名寄市長 加藤 剛士

まずは、昨年の3月11日、東日本大震災で被災された皆様には心からお見舞いを申し上げます。そして震災の翌日から現地入りし、絶大なる支援をいただいた陸上自衛隊名寄駐屯地の皆様、被災地の復旧復興のため、様々な活動を展開された福祉関係者や市職員をはじめ、ボランティアの皆様にあらためて敬意と感謝を申し上げます。

さて、我が国の経済は、バブル経済崩壊後から今日に至るまでの「失われた20年」と形容されるように、長期の停滞から脱却できずにいます。また、我が国を取り巻く国際環境に目を向けてみると、中国をはじめとする新興国の台頭、円高などにより、我が国は、多くの国際的な課題を抱えるとともに、新たな局面への対応を迫られています。日本のいたるところでシテムにひずみが生じ、まさに国の大きな転換期、その最中の大震災でした。

震災で失ったものは大きいですが、そこから得なければならぬ教訓があるはずで、高度成長期以来、手軽さや便利さがもてはやされ、我々は過剰な豊かさや便利さを謳歌し過ぎていたかもしれません。自然と調和して生かされているという、謙虚さが足りなかったのかもしれない。あるいは、「自分さえよければ」という心の狭さがあったのではないか。

この地に開拓の鉄を入れた先人達は、最初の数年、食べることもままならず、自然の厳しさと闘いながら生きてきました。しかし、困苦に耐えた日々には大きな理想や希望、夢がありました。それは、私心にとらわれた夢ではなく、その根底にあったものは、子々孫々のためという公の心であったはずで、

昨年、私は日本各地、たくさんの地域を訪問させていただきました。あらためて名寄市は、



豊かな自然、澄んだ空気、きれいでおいしい水がある。また、美しく豊かな自然環境に恵まれる一方で、自然災害も極めて少ない地域であり、本当に恵まれていると感じました。広い道路は少なくてこそかもしれませんが、見通しが良いため、交通事故も少ない。寒暖の差が大きい名寄の風土からは、おいしくて、安全安心な食べ物が育まれます。もち米やアスパラ、かぼちゃ、ひまわりなどは、日本に誇れる名寄の産品です。そして美しい冬のしげれ、雪。すばらしいスキー場とジャングル、カーリレグ施設。さらには公園内最大級の望遠鏡を有するすばらしい天文台、道北地方の広域医療を担う市立総合病院、保健・医療・福祉のプロを育む最北の公立大学、地域の安全安心に大きな貢献をいただいている名寄駐屯地がある。そして何よりすばらしい人材。こんなまち、他にはないです。

自分たちのまちの魅力や歴史にもっと自信を持つようではありませんか。自分たちの位に愛着を持ち、好きになることは大きなまちづくりの力となります。今ある人、モノ、あらゆる地域資源を磨いて、磨いて、磨きまくる。豊富な資源を有機的に結びつけ、点から線へと展開する。それぞれがさらに輝きを増し、豊富な資源に魅力を上乗せすることで、多くの人が集まり出す。このまちに未来が明るく元気になる、癒される。名寄市には、そんな可能性と素材がいっぱいいます。

来年度以降からの5年間に取り組む施策とその内容を示した新名寄市総合計画後期計画が、多くの市民の皆様のおかげによって、昨年の12月に策定されました。よりよいまちづくりや地域の活性化につながる地域福祉計画、観光振興計画などにつきましても、今年度中に策定されます。本年は、名寄市の今後数年間の「幹」となる各種計画をしっかりと具現化し、立派な枝葉と美しい「花」を咲かせるためのスタートとなる一年です。また、JR名寄駅横の（仮称）複合交通センター、名寄市民文化センター横の（仮称）市民ホールなどの夢あふれる施設整備計画も具現化していきます。公の心を重んじ、人や自然との調和を尊んできた、この地に息づく開拓者精神を受け継ぐとともに、北北海道の中心市としての使命に燃え、全力で市政運営に邁進してまいりますので、困難な時代であるからこそ、市民の力、まちの力を結集して、ともに明るく元氣な名寄市を創り上げていきましょう。

今年一年が市民の皆様にとって、輝かしい年となりますことを心から祈念いたします。